

一般社団法人日本看護学教育学会 2021 年度評議員会 議事録

日 時：2021 年 6 月 20 日（日）13：30～15：45

場 所：AP 浜松町 G ルーム（〒105 - 0011 東京都港区芝公園 2-4-1 芝パークビル B 館地下 1F）

総評議員数：120 名

出席評議員数：97 名（会場出席・WEB 会議システムによる出席 58 名 委任状出席 39 名）

出席理事：大島弓子理事長、安酸史子副理事長、小山田恭子理事、北素子理事、小山眞理子理事、白水眞理子理事

（以下、WEB 会議システムによる出席理事）

雄西智恵美理事、嘉手苺英子理事、小松万喜子理事、西村ユミ理事、本庄恵子理事、正木治恵理事（以上 12 名）

出席監事：田村やよひ監事

（以下、WEB 会議システムによる出席監事）

秋元典子監事

議長：大島弓子理事長

議事録作成者：大島弓子理事長

議事録署名人：大塚眞理子 評議員（WEB 会議システムによる出席）

長家智子 評議員（WEB 会議システムによる出席）

（五十音順）

※ 本法人定款規定に基づき、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員を「評議員」と表記し、同法上の社員総会を「評議員会」と表記し、また同法上の代表理事を「理事長」と表記するものとする。）

I. 開会

白水眞理子理事より出席者は会場・WEB 会議システムによる出席 58 名、委任状 39 名、計 97 名であり総評議員の過半数の出席があるため、定款第 22 条より、一般社団法人日本看護学教育学会 2021 年度定時評議員会が成立することが宣言された。

なお、議事に先立ち、本定時評議員会は WEB 会議システムを用いて開催することを宣言し、WEB 会議システムによる出席者の音声即時に他の出席者に伝達され、出席者が一堂に会するのと同様に適時適確な意思表示が相互にできる状態になっていることを確認した。

II. 理事長挨拶

大島弓子理事長より以下の挨拶があった。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2020 年度に引き続き WEB 開催とした。本年度は学会誌のオンライン化に関する議論もあるため、是非様々なご意見をいただきたい。

Ⅲ. 議長、書記、議事録確認者兼議事録署名人の選出

議長は、定款 23 条により大島弓子理事長が務めることが確認された。書記として、事務局（毎日学術フォーラム）の脇田史城氏の紹介があり、議事録確認者兼議事録署名人として大塚眞理子評議員と長家智子評議員が推薦され、**出席評議員の過半数（94 名）の賛成により承認された。**

Ⅳ. 報告事項

1. 2020 年度理事会・評議員会報告

大島弓子理事長より、定時評議員会資料（p. 1～8）に基づき以下の報告があった。

- ・2020 年度は通常理事会を 7 回、臨時理事会を 5 回開催し、定款や定款施行細則の見直し、30 周年記念事業に関する検討、学会誌オンライン化に関する検討などを進めた。評議員会は定時評議員会を 1 回開催した。

2. 2020 年度庶務報告

白水眞理子理事より定時評議員会資料（p. 9）に基づき以下の報告があった。

- ・会員数の動向は、会員総数 4,551 名（2021 年 3 月 31 日現在）、名誉会員 7 名、賛助会員 4 社である。新入会 274 名、退会 294 名、うち資格喪失は 92 名である。会費の納入率は、2019 年度分 96.9%、2020 年度分が 95.7%であった。

3. 2020 年度（自 2020 年 4 月 1 日至 2021 年 3 月 31 日）事業報告

1) 第 30 回学術集会の開催

濱中喜代学術集会会長より定時評議員会資料（p. 10～11）に基づき以下の報告があった。

- ・第 30 回学術集会は、「新時代に架ける看護学教育」をメインテーマとして、2020 年 9 月 5 日（土）～22 日（火）にオンラインにて開催された。参加者数は 1,035 名であった。

2) 学会誌の発行

小山田恭子理事より定時評議員会資料（p. 11～12）に基づき以下の報告があった。

- ・学会誌を第 30 巻第 1 号から第 3 号まで発刊し、全て年度内に発送を完了している。査読マニュアルの見直しを進めた。2020 年度で専任査読者の任期が満了となるため、査読者依頼のための選定基準の見直しを進め、2021 年度以降の専任査読者の選出を行った。
- ・学会誌のオンラインジャーナル化のための情報収集・検討を行った。
- ・2020 年度の論文投稿状況は、投稿論文総数 59 編、採択 25 編、不採択は 27 編（2021 年 3 月 31 日現在）であった。

3) 研究の推進・研究の助成

本庄恵子理事/小松万喜子理事より定時評議員会資料（p. 12～13）に基づき以下の報告があった。

- ・第 30 回学術集会の理事会企画として、「教育実践を研究にするためのワークショップ<入門編>」をオンデマンドで実施した。アクセス数は 167 件と、継続的な関心の高さが示された。「教育実践を研究にするためのワークショップ<基礎編>」として、研究推進セミナーを、①オンデ

マンド型講義（117名参加）、②ライブ型ワークショップ（17名参加）にて開催した。また、メンターによる個別のフォローアップ（4名参加）を実施した。

- ・2019年度研究助成者4名が、第30回の学術集会で成果発表を行った。2020年度助成者についてはCOVID-19状況下の特例として研究成果を2年後に発表することを認めた。2021年度の研究助成の審査を行い4件が採用決定となった。

4) 看護学教育の質の向上

嘉手苺英子理事より定時評議員会資料（p.13～14）に基づき以下の報告があった。

- ・第30回学術集会理事会企画として、第8回の「看護ハナマル先生模擬授業」をオンデマンドで開催した。全国5か所の地域から看護学生が参加し、授業を展開した。
- ・「ICT活用研修会」をWEB開催し、当日の様子を録画・配信した。
- ・臨地実習指導研修会「基礎編」を開催した。グループワークを中心にした研修会であったため録画・配信はせず、当日ライブでの開催とした。

5) 看護学教育制度関連

小山真理子理事より定時評議員会資料（p.14～15）に基づき以下の報告があった。

- ・2010年から各国の看護学教育制度に関する情報を調査してきたが、日本看護協会国際部で同様の制度情報が公表されていることが判明し、当該データの活用を推奨している。なお2020年度学術集会理事会企画で成果報告し、終了とした。
- ・指定規則に関する情報や各省庁から出された情報をアップデートしている。
- ・COVID-19影響下の国内外の看護学教育に関する文献検索を行い、リスト化した上でHPに掲載する準備を進めている。

6) 広報・渉外・社会貢献

西村ユミ理事より定時評議員会資料（p.15～16）に基づき以下の報告があった。

- ・第31回学術集会においてナーシング・サイエンス・カフェを開催する準備を進めている。
- ・ホームページのマイページに過去の学会誌・学術集会講演集の掲載ページを作成した。

7) 国内外の看護学教育に関する諸組織との連携

西村ユミ理事より定時評議員会資料（p.16）に基づき以下の報告があった。

(1) 一般社団法人日本看護系学会協議会

2020年度総会（意見交換会）に出席した。COI管理ガイドラインワーキンググループへ参加した。

(2) 一般社団法人看護系学会等社会保険連合

社員総会及び各委員会活動に参加した。

(3) 日本学術会議

日本学術会議協力学術研究団体として登録しているため、その協力があつた場合に対応し、学会員へ情報を発信している。また、日本学術会議の活動への参加と看護学教育関連事項の情報

発信を行っている。

8) 災害支援対策

正木治恵理事より定時評議員会資料 (p. 16~17) に基づき以下の報告があった。

- ・災害支援助成事業の過去の経緯を踏まえフローシートを作成し、それに基づき福島県沖地震に関する災害支援助成の募集を行った。
- ・「新型コロナウイルス感染拡大状況下で教育を受ける看護学生の声」に関する調査を、全国の看護基礎教育機関を対象に、3月に実施した。調査結果概要については本評議員会で別途報告予定である。

9) 倫理に関する検討と研究倫理審査

欠席の吉沢豊予子理事に代わり小松万喜子理事より定時評議員会資料 (p. 17) に基づき以下の報告があった。

- ・倫理審査部会において、1件の新規申請を受け付け、迅速審査を行い承認した。

10) 第31回学術集会の準備

池松裕子第31回学術集会会長より以下の概要説明があった。

- ・第31回学術集会は、8月18日から1ヵ月間開催予定。現在、録画収録を進めており、1ヵ月間、サイトに掲載予定である。シンポジウムはライブ開催、理事会企画はライブ・オンデマンド開催それぞれに準備をしており、交流セッションは全てライブで開催予定である。事前登録期間であり、皆様にも是非事前登録をお願いしたい。

4. 2021年度(自2020年4月1日至2021年3月31日)事業計画について

大島弓子理事長より定時評議員会資料 (p. 18~19) に基づき報告があった。

5. 30周年記念事業計画について

安酸史子副理事長より定時評議員会資料 (p. 20) に基づき報告があった。また、大島弓子理事長より、記念誌編纂に当たって尽力をいただいている小松万喜子理事を始めとしたプロジェクトメンバーへの感謝が述べられた。

5. 2021年度(自2020年4月1日至2021年3月31日)予算について

北素子理事より定時評議員会資料 (p. 21~22) に基づき以下の報告があった。今後、COVID-19の状況も加味し、必要に応じて補正予算策定も検討する予定である。

- ・収益の部について、会費を34,000,000円(正会員4,700名、納入率を95%と見積もり)、入会金は300名分(900,000円)、学術集会の収益は第31回学術集会16,043,000円で計上し、当年度収益が51,594,000円となり、前年度繰越正味財産額113,903,924円と合わせ、165,497,924円となっている。
- ・費用の部について、一般事業費の合計は、24,606,000円で前年度比6,346,477円の増額、学術集会

事業費は16,043,000円で前年度比5,393,438円の増額、事務費は18,513,000円で前年度比2,335,200円の減額となり、費用の合計は59,162,000円、支出の差額増減額は7,568,000円の赤字となり、次年度繰越正味財産額が106,335,924円という予算とした。

6. 利益相反委員会の設置及び利益相反に関する指針の改正、利益相反に関する指針細則、利益相反(COI)申告のオンライン化

安酸史子副理事長より定時評議員会資料(p.23~25)に基づき以下の報告があった。

- ・「3. 指針の摘要となる対象者」から、「評議員」及び「本法人の事務職員」を除外した。
- ・利益相反に関する指針細則や利益相反委員会規程を別途制定した。

7. 学会活動に関する記録のデジタル・アーカイブ化及び会員システムのオンライン化

大島弓子理事長より以下の報告があった。

- ・学会資料のクラウドへの保存を進めている
- ・8月の会員総会をもって、メールと郵送の併用を取りやめ、メールのみでの情報発信を行う予定である。

8. 理事選挙の実施とオンライン化

大島弓子理事長より以下の報告があった。

- ・次回理事選挙より、選挙をオンラインシステムにて実施予定である。

9. 「新型コロナウイルス感染症拡大状況下で教育を受ける看護学生の声」調査結果および広報

正木治恵理事より定時評議員会資料(p.26~28)に基づき報告があった。また、調査に協力をいただいた看護基礎教育機関への謝辞が述べられた。

- ・資料の内容で調査・集計を行った。結果概要について本学会から文部科学省及び厚生労働省にプレス公表を行う予定である。また、同資料を学会HPにも掲載予定である。

VI. 審議事項

1. 2020年度(自2020年4月1日至2021年3月31日)決算について

北素子理事より定時評議員会資料(p.29~30.2020年度決算書類(貸借対照表、正味財産増減計算書、附属明細書))に基づき以下の報告があった。

- ・収益の部について、当年度収益の合計は46,842,719円で補正予算額よりも2,899,919円の増額となった。前年度繰越正味財産額の105,623,453円を合わせ、全体の収入合計は152,466,172円である。
- ・費用の部について、合計は38,472,994円、当年度収支差額増減額は8,369,725円であり、次年度への繰越正味財産額は113,903,924円である。一般事業費の執行率は70.6%となり、前年度の73.3%、前々年度の71.2%に引き続き、高い執行率を維持した。
- ・定時評議員会資料のp.31~36は法人の会計に従って整理したもので、p.31は貸借対照表で、資産、負債、純資産の状態を表している。p.32~33は正味財産額、正味財産増減計算書となっており、法人の会計に従ったものである。p.32~33は決算報告の各事業の費用の内訳詳細となっている。p.35

は重要な固定資産の明細を記している。

2. 2020年度監査報告

田村やよひ監事より定時評議員会資料（p. 37）に基づき、2020年度の監査結果が報告された。

・監事は、理事および使用人等と意思疎通を図り、理事会その他の重要な会議に出席し、必要に応じて説明を求め、業務及び財産の状況を調査した。監査は2021年4月24日に行い、その結果、事業報告は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示し、財務諸表は法人の財産および損益の状況をすべての重要な点において適法かつ適正に表示していることを認めた。

→上記審議事項1, 2の報告説明を受け、議長は2020年度の決算書類及び監査報告の承認を議場に諮ったところ、特段の異議はなく、出席評議員の過半数（95名）の賛成により承認された。

3. 定款及び定款施行細則の改定（案）について

安酸史子副理事長より定時評議員会資料（p. 38～52）に基づき、定款及び定款施行細則の改定案が説明された。

→上記審議事項について質問意見はなかった。定款の改定案については、総評議員の半数以上であって、総評議員の議決権の3分の2以上（92名）の賛成により承認された。また、定款施行細則の改定案は、出席評議員の過半数（94名）の賛成により承認された。

4. 学会誌のオンラインジャーナル化について

小山田恭子理事より定時評議員会資料（p. 73～75）及び当日配布資料に基づき説明がなされた。

1) オンラインジャーナル化への移行の可否について

→出席評議員の過半数（94名）の賛成により承認された。

2) プラットフォームをJ-Stage とすることについて

・オンラインジャーナル化をする場合のメリットを最大限に生かすために、プラットフォームをJ-Stage とすることを理事会案として決定した。

→出席評議員の過半数（95名）の賛成により承認された。

3) 冊子体の無料配布を今後廃止することを前提にオンラインジャーナル化を進める期間等について

・一定期間において、今後冊子体の配布を有料としていく予定である。廃止の時期については全会員にアンケート調査を行いその結果により決定することを予定している。

質問：図書館への寄贈は引き続き継続されるのか。（吉田澄恵評議員）

回答：購読会員として引き続き冊子体での配布を継続予定である。（小山田理事）

意見：小規模の看護学校等、情報弱者が生まれないように、慎重に検討・対処いただきたい。（吉田評議員）

回答：会員でありながらそのような不利益を受けるといことがないよう進めていく。また全会員へのアンケートも行うため、その結果に基づき慎重に対応していく予定である。（小山田理事）

回答：費用の側面もあり永久的に紙媒体を並存させることは現実的に難しいため、その廃止時期に

ついてアンケートを行う予定ということである。(大島理事長)

意見：オンラインジャーナル化自体には賛成であるので、紙媒体の廃止については慎重に検討の上、対応してほしい。(吉田評議員)

→出席評議員の過半数(93名)の賛成により承認された。

5. 第33回学術集会会長について

大島弓子理事長より定時評議員会資料(p.76)に基づき説明された。

→出席評議員の過半数(94名)の賛成により承認され、第33回学術集会会長は藤野ユリ子氏(福岡女学院大学)に決定した。

9. その他

特になし

予定の議事は以上で終了。

VII. 閉会

大島弓子理事長より、以上をもって定時評議員会の議案審議が終了したことが宣言され、WEB会議システムを利用した本定時評議員会は通信が切断されることもなく、終始異常なく、閉会となった。

上記決議を明確にするため、この議事録を作成し、定款第25条に基づき、議長兼議事録作成者及び本定時総会において選任された議事録確認者兼議事録署名人が次に記名押印する。

2021年6月20日

一般社団法人 日本看護学教育学会 定時評議員会

議事録作成者：議長(理事長) 大島弓子 印

議事録確認者兼議事録署名人(評議員) 大塚真理子 印

議事録確認者兼議事録署名人(評議員) 長家智子 印

書記：脇田史城 印